

【第117回生涯教育講座】

悪性リンパ腫診療の現状と進歩

すず 鈴 みや 宮 じゅん 淳 じ 司

キーワード：悪性リンパ腫，ホジキンリンパ腫，B細胞リンパ腫，
T/NK細胞リンパ腫，プレシージョンメディシン

要 旨

悪性リンパ腫（リンパ腫）は多数の病型の集合体で，B細胞リンパ腫，T/NK細胞リンパ腫，ホジキンリンパ腫に大別される。B細胞とT/NK細胞リンパ腫は成熟・分化段階により，前駆細胞由来と成熟細胞由来に分けられ，成熟リンパ腫には多数の病型がある。リンパ腫細胞の増殖速度により分けることが臨床的に有用である。リンパ腫診療では正しい病理診断（病型診断）をすることが最重要で，病理組織像に加えて免疫形質と遺伝子検索が必要で，病期診断と治療効果判定にFDG-PETが使われる。患者は年々増加し，高齢化し70%が65歳以上である。治癒を目指す場合には治療強度を落とさず，インドレントリンパ腫では病気のコントロールをし，無理をしないといった層別化治療を実施する。高齢者は予後不良で，遺伝子異常を背景にした病型による層別化だけでなく，年齢などのリスクや予後不良を示す染色体・遺伝子異常などのリスク評価の上，プレシージョンメディシンを実施する。

はじめに

悪性リンパ腫（ML）は，リンパ球系の白血病や形質細胞の腫瘍である多発性骨髄腫を含むリンパ球系腫瘍の総称で，国際的に広く用いられているWHO分類では，ホジキンリンパ腫，B細胞リンパ腫とT/NK細胞リンパ腫に3つに大別され，さらに免疫不全関連リンパ増殖異常症，組織球・樹状細胞腫瘍が大項目として設けられており，

2016年のWHO分類の改訂¹⁾では90種類以上の病型が記載されている。リンパ腫が，内科医だけでなく，血液専門医の中でも敬遠されることがあるのは，種類が多く，複雑であると考えてしまうからである。B細胞リンパ腫とT/NK細胞リンパ腫を一緒にして非Hodgkinリンパ腫（NHL）と呼ぶこともある本稿では，リンパ腫診療に必要な基本的事項と，治療の進歩について記載する。

Junji SUZUMIYA

島根大学医学部附属病院腫瘍センター／腫瘍・血液内科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部附属病院腫瘍センター